

JR室蘭本線立体交差橋の整備

■現状と課題

当該地域は、JR室蘭本線を挟み国道36号と道道上登別室蘭線が並行に走り、JR室蘭本線の山側の若草町・新生町地区は、区画整理事業により住宅の増加、商業施設の集積など市街地の進展により、交通量が増大している地域であります。

国道と道道のアクセスには既存の踏切が地域の両端にそれぞれありますが、踏切間が2.6kmと距離があり、また、踏切遮断時間が長いことなどから、国道と道道とのネットワークが弱いため、道路網の整備としてこれらの幹線道路を結ぶ立体交差道路が必要であります。

また、津波災害において、栄町地区の住民や国道36号の利用者の避難道路としても、JR室蘭本線を跨ぐ立体交差道路が必要であります。

■要望内容

- 国道36号と道道上登別室蘭線を結ぶJR室蘭本線立体交差橋の事業化に向けた検討。



■事業効果

- 道路網確保による交通アクセスの向上、物流経路の確保
- 災害時の安全性の確保、避難路・迂回路の機能確保